

かぎすまみきゃーく
美ぎ島宮古グリーンネット活動
～災害に強い緑豊かな宮古島を目指して～

沖縄県 宮古支庁 農林水産整備課 今田益敬

1. はじめに

宮古地域は、沖縄本島の南西約 300 kmに位置し、大小八つの島からなる。地形は島全体が隆起珊瑚礁の琉球石灰岩からなる起伏の少ない地形で農耕に適し、総面積の 54 %を耕地が占める。

森林率は 16.5 %と小さく、ha あたり蓄積量も 50m³ と、いずれも県平均の半分にも達しておらず、緑資源の乏しい地域と言っても過言ではない。

当該地域は毎年のように夏季には台風が接近し、干ばつ害に見舞われる等、厳しい環境条件下にあることから、古くから防風防潮林の造成等、各種森林整備事業が展開されてきたところである。特に平成 15 年に発生した台風 14 号は甚大で、観光、農業（写真 1）、ライフラインなど 132 億円の被害を与えた。そうした中であって、防風林が整備された園芸ハウス（写真 2）では総じて軽微な被害に止まっていたことから、防風防潮林の重要性が再認識され、災害に強い森づくりの機運が高まってきた。

一方、珊瑚石灰岩を母材とする保水性に乏しい島尻マージが占有する当該地域は、森林の水源かん養機能に大きな期待が寄せられており、さらに快適な生活環境を醸成するとともに観光産業の活性化に寄与するものとして、緑化推進に対する地域住民の意識高揚も図られつつある。

こうした流れを背景として、「災害に強い緑豊かな宮古島」づくりを推進しているところであるが、そのためには県や市町村の計画に基づいて実施される公共事業と連動した住民参加型の、きめ細かな緑化事業を展開する必要がある、その担い手として地域住民と密接な関係を持つ宮古森林組合を事務局とする森林ボランティア団体を設立し、森林・緑化整備に関する普及啓蒙を図る事になった。

今回、地域緑化の新しい試みとして「美ぎ島宮古グリーンネット」の、これまでの活動状況を報告する。

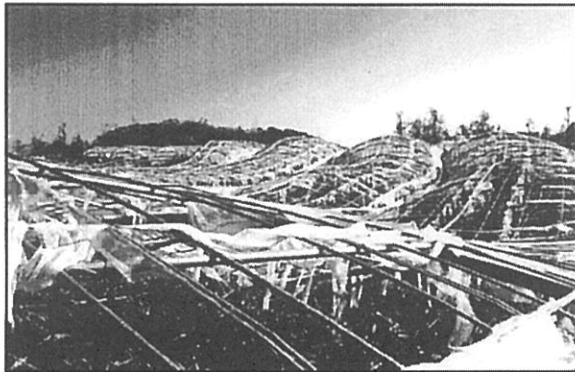


写真1 ビニールハウス倒壊状況

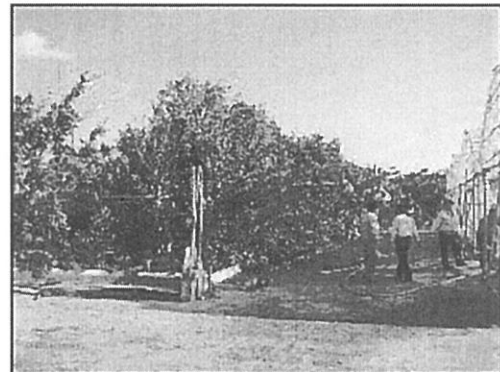


写真2 被害の軽微なハウス(旧伊良部町)

2. 取り組みの概要・経過

「美ぎ島宮古グリーンネット」（図 1）は、災害に強い農業経営や水資源確保（地下水の保全）、景観の形成等を自らが行なうため設置されており、防災に強い島づくりを推進するとともに、花と緑に包まれた美ぎ島宮古づくりを百年の計で持続的に行うことを目的としており、公共事業だけでなく、地域住民自ら、宮古地域の緑づくり、防風・防潮林や水源林の造成、維持管理などの活動を行っている。その特徴としては、

- ①成林するまで徹底的に、補植、下刈り等保育する。
- ②過去に補助事業で植栽した防風林等において、台風等により枯損した場所で植栽をする。
- ③花木・果樹等も植栽して親しみのある景観を形成し、地域とのふれあいの場をつくる。ことがあげられる。

美ぎ島宮古グリーンネットの組織は、宮古森林組合を事務局とし、市民、県市町村関係機関、J A、製糖工場、地元経済界等を会員としている。

なお、行政サイドから宮古支庁農林水産整備課長、宮古島市経済部長等が美ぎ島宮古グリーンネット役員として参加している。

平成 17 年度から平成 18 年度にかけての事業は、①美ぎ島宮古グリーンネット活動促進、②植栽・保育等活動、③情報の発信、④国や民間等の支援事業等の導入に向けて、各種検討会の開催、事務局の設置、会員の募集、総会の開催、植栽場所、

樹種の選定、植栽方法、数量等の算出、グリーンネットの紹介、会員募集等の活動を実施した。

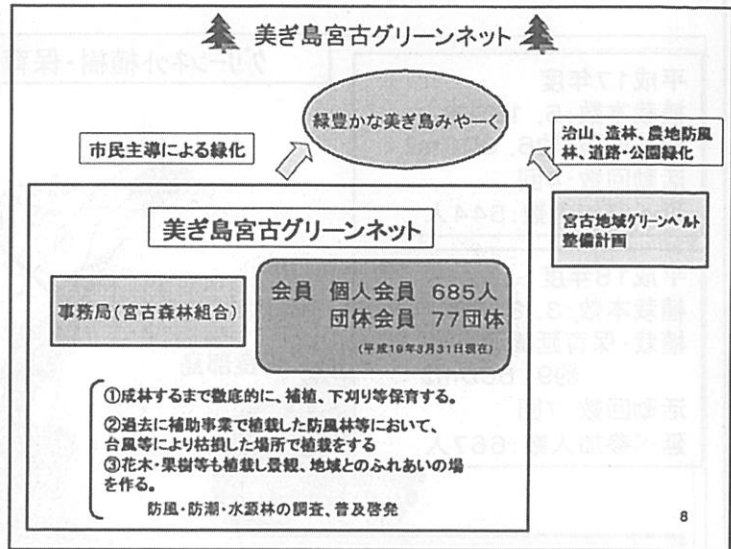


図1 美ぎ島宮古グリーンネット

3. 実行結果

(1) 美ぎ島宮古グリーンネット活動の促進

地域住民と一体になった森林・緑づくりの取組を強化するため、平成 17 年 4 月 18 日に、美ぎ島宮古グリーンネット設立準備会を開催し、趣意書、会則の内容等について協議を行った。賛同者及び会員の募集については、J A 沖縄、沖縄製糖等地元経済界に対し、会員募集活動を行うことにより、425 会員の入会者を得ることができ、平成 17 年 6 月 8 日に美ぎ島宮古グリーンネット設立総会を開催した。平成 17 年度末には 670 会員となった。

平成 18 年度には、県、市町村、J A 沖縄、沖縄製糖等地元経済界に対し、継続的に会員募集活動を行うことにより、762 会員となった。

平成 18 年 7 月 7 日に美ぎ島宮古グリーンネット第 1 回通常総会を行い、平成 18 年度の事業計画等について決定した。

また、宮古島市教育委員会及び新潟県上越市教育委員会事務局板倉分室と美ぎ島宮古づくりに関する協定書を締結した。

(2) 植樹・保育等活動

植樹作業を効果的に行うため、樹種選定、植栽配置、会場の選定等について検討し、植樹活動及び準備について指導した。

2 年間の活動(図 2)で、植樹・保育活動(写真 3, 4) 11 回、植栽本数約 9 千本、延べ参加人数 1,211 人、植栽箇所 6 地区、多良間村を除く旧市町村に 1 箇所以上の活動地区を設立することができた。

8 月 23 日の第 5 回活動(写真 5)において新潟県板倉小学校と地元の西城小学校の交流会を開催し、植樹活動をとおして都市部と農山村部との相互理解、緑化に対する理解が深まり、美ぎ島づくりに貢献することができた。

また、本活動がはじまって以降、自主的に防風林を造成する農家が増えてきた。

(3) 情報の発信

グリーンネットの活動情報を広く発信するため、平成 17 年 10 月にホームページ(図 3)

(http://www.geocities.jp/kagisuma_miyako_gn/)を開設し、総会情報、イベント活動(植栽・保育)、等の情報発信を行うとともに会員相互の意見交換ができるように掲示板を設置した。また、地元の新聞やケーブルテレビ等も活用し活動案内や、新規会員募集等を行ってきた。

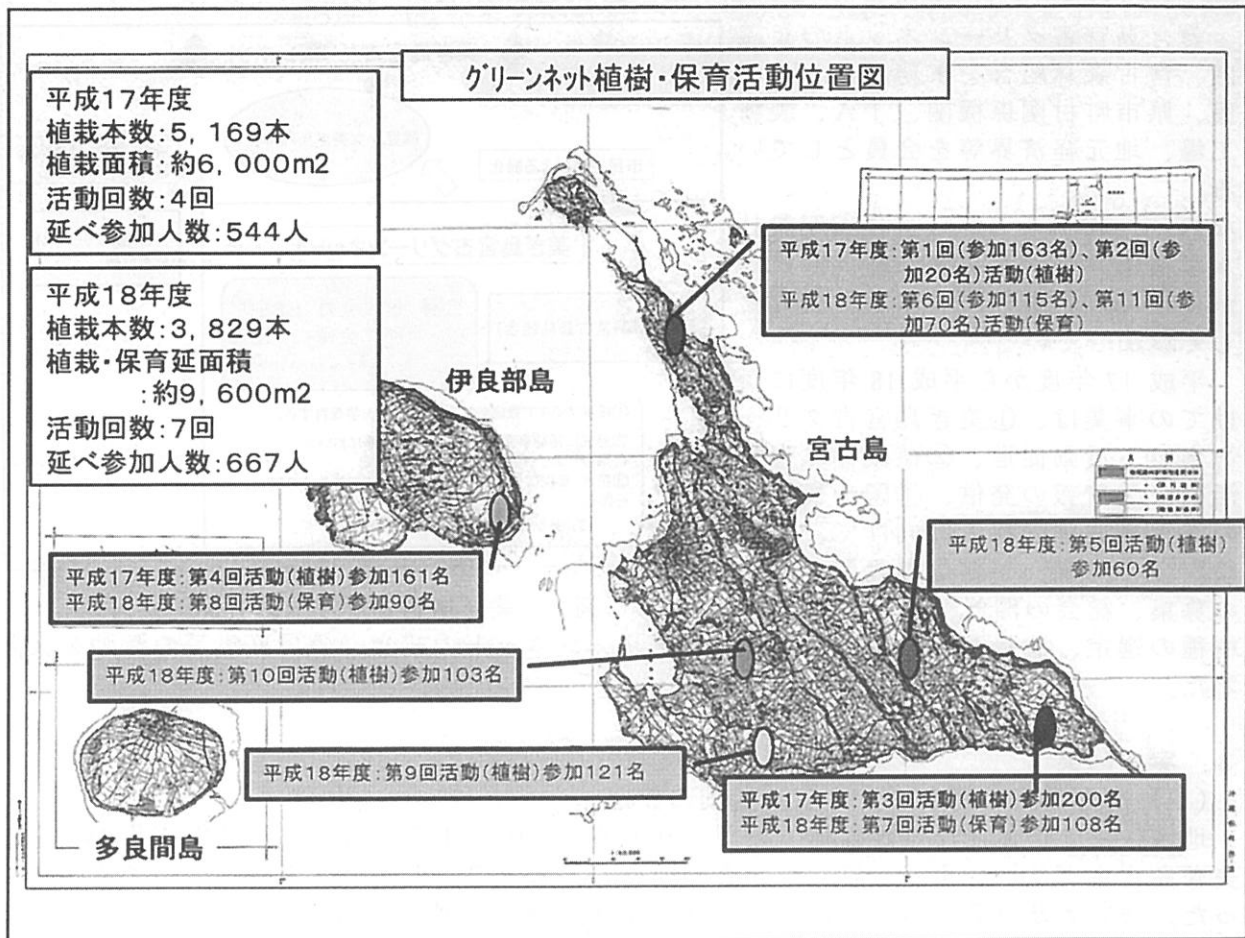


図2 グリーンネット植樹・保育活動



写真3 植栽作業第9回活動(H18.11.23)



写真4 第10回活動(H18.12.23)

(4) 国や民間等の支援事業等の導入

活動資金確保のため、林野庁の直接補助事業である、「山村力(やまじから)誘発モデル事業」2次公募に応募し採用された。補助金額は活動計画の1/2で200万円の補助を受けた。この事業により、植栽、保育活動及び新潟県板倉小学校と地元の小学校の地域を越えた交流が実施できた。



図3 美ぎ島宮古グリーンネットHP



写真5 第5回活動(H18.8.23)

4 考察・まとめ

平成 15 年の台風 14 号被害を契機に、地域の森林・緑は、地域の財産として、地域住民が自らつくり育てようとする気運が高まり、潤いのある生活環境の形成や観光振興への寄与という地域ニーズと相まって美ぎ島宮古グリーンネットを設立することができた。

平成 17 年度及び 18 年度は、HP や地元新聞、ケーブルテレビ等で活動を宣伝し、着実に事業展開してきているが、これまでの活動を通して以下のような課題も見えてきた。

- ①引き続き植栽・保育等を継続させるための経費、労力、時間の確保が求められてくる（現在 6 箇所植栽しているが保育を考えるとこれ以上箇所数を増やすのは困難、ある程度成長するまでは、既存地区の延長・拡大で対応するか、植栽をグリーンネット活動のメインとし、保育は道具、飲み物等の助成により対応する等検討する必要がある）。
- ②木は植えさえすれば後は勝手に育つという誤解がまだあるため、保育の重要性を引き続き地域住民に啓蒙する必要がある（植えばなしでは木は育たない）。
- ③会員及び参加者が楽しみながら（ピクニック気分等）参加できる企画が必要である。
- ④会員への連絡、植栽活動の推進等、活動準備の効率化に向け、現状の活動形態で続けるのか、将来的に NPO 法人化をするのかを含めた検討をする必要がある。
- ⑤この様な場を通じて、子供達に対する森林環境教育の場としての活用方法を更に検討する必要がある。

美ぎ島宮古グリーンネットの活動を通して、地域住民に対し、森林の維持管理の重要性について十分に理解してもらおうとともに、平成 15 年の台風 14 号による甚大な被害を受けて高まった、防風・防潮林など森林の重要性や必要性についての関心を風化させない、活発な活動を今後も継続して支援する必要がある。